

四国災害アーカイブス

活用の手引き



ご挨拶

四国は自然災害が発生しやすい特性を有しており、四国に住む人々は過去の災害から様々なことを学んできました。災害による被害を減らすためには、社会資本整備を進めるなどハード面から対策を講じる一方で、過去の災害から学んだことを活かして、人々が被害を軽減するためのソフト面の取り組みを進めることが重要です。



しかし、今日、地域の人と人とのつながりが薄れ、過去の災害の教訓などを伝えにくい状況が生まれてきています。また、過去の災害に関する資料が保存、継承されていない、あるいは貴重な資料が十分に活用されていない状況も見受けられます。

このため、(一社)四国クリエイト協会では「四国災害アーカイブス事業検討委員会」(委員長:村上仁士徳島大学名誉教授)の指導のもと、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、できるだけ多くの方々に活用していただけるようインターネットにより情報を提供する「四国災害アーカイブス」を作成してまいりました。



四国災害アーカイブスについては、平成24年7月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成25年7月からは第二弾として土砂災害、濁水の情報も提供してまいりましたが、このたび平成26年4月より本格的な運用の運びとなりました。資料の収集にあたりましては、四国管内の公立図書館をはじめ国、県、市町村などの皆さまにもご協力をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

この四国災害アーカイブスが多くの方々に活用され、四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っております。

平成26年3月

一般社団法人 四国クリエイト協会
理事長 福田 昌史

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の3つのことをお伝えできればと考えています。

身近な所に 災害の歴史があります

平成23年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、濁水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さまの身近な所にも災害の歴史があります。

人々が災害に立ち向かってきた 歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけではありません。できるだけ災害が起こらないように、またできるだけ被害が大きならないように、その時々に応じた取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重ねの上に、今日の四国があります。

災害にまつわる 石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さまが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。



▲香川県小豆島町

四国災害アーカイブスの利用にあたって

■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用していただけます。

■利用対象と利用例

利用者の皆さまの工夫により、一例ですが、以下の利用が可能です。

■地域の方々や生徒の皆さん

地域の方々や生徒の皆さんが、自分の住んでいるまちについて、例えば明治から現在までに起こった災害の歴史を調べたいときに活用することができます。

■学校の先生

学校の先生が児童・生徒さんを対象として行う防災教育のツールとするため、地域の災害履歴を調べて災害年表や災害マップなどをつくるときに活用することができます。

■地域の防災リーダーの方々、市町村の防災に携わる方々

自主防災組織や市町村の防災担当の方々が、過去の災害時の人々の取り組みの中から、災害対応の仕方や被害軽減策、教訓を見出すときに活用することができます。

■研究者の方々や大学生の皆さん

研究者の方々や大学生の皆さんが、津波の歴史と海岸堤防工事の実施など災害と社会資本整備との関連を調べたり、地域の災害研究に活用することができます。

■報道関係の方々

報道関係の方々特定の災害に関する四国全体の被害分布状況を調べたり、年間カレンダーの中で四国の災害暦を調べたりするときに活用することができます。

※多くの皆さまに利用していただきたいと考えていますが、情報提供にあたっては中学生以上が理解できる程度の表現としています。

■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、約28,000件です(平成26年3月現在)。

■収録されている災害情報の内容

災害の種類	1)地震・津波 2)土砂災害 3)渇水 4)風水害 5)高潮	6)雪害 7)火山災害 8)大規模な火災 9)その他
情報の内容	災害の状況、被害の様子、地域の方々の対応、被害軽減の取り組み、等	
収集の範囲	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの	
収集対象物	上記の情報を記載している印刷物または電子データ、および現地調査情報 ●市町村史、郷土史 ●事業誌 ●災害記録、災害体験集 ●写真集 ●学術論文、雑誌論文 ●その他文献等	

■検討委員会

四国災害アーカイブスは、下記の検討委員会の指導のもと作成してきました。

四国災害アーカイブス事業検討委員会 委員名簿

徳島大学 名誉教授	村上 仁士
徳島大学 環境防災研究センター 教授	中野 晋
香川大学 危機管理研究センター 教授	長谷川 修一
香川大学 防災教育センター 特命教授	松尾 裕治
愛媛大学 防災情報研究センター長 理事	矢田部 龍一
愛媛大学 防災情報研究センター 教授	木下 誠也
愛媛大学 防災情報研究センター 教授	竹田 正彦
高知大学 南海地震防災支援センター 教授	大年 邦雄
高知大学 南海地震防災支援センター 教授	笹原 克夫
高知工科大学 システム工学群 教授	高木 方隆
国土交通省 四国地方整備局 企画部長	石井 一生
徳島県 県土整備部長	中内 雅三
香川県 土木部長	細谷 芳照
愛媛県 土木部長	田村 弘文
高知県 土木部長	奥谷 正
(一社)四国クリエイティブ協会 理事長	福田 昌史

(平成25年12月現在、順不同、敬称略)

四国災害アーカイブスの利用上の留意点

四国災害アーカイブスを利用する時には、特に以下の点にご留意ください。

■一定の様式のもとの情報提供

四国災害アーカイブスは過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、一定の様式のもと提供するものです。このため、原資料に掲載されている情報すべてが提供されるとは限りません。すべての内容をお知りになりたい方は原資料をご覧ください。

■原資料の尊重

情報の整理・提供にあたっては、できるだけ原資料を生かすことを原則としています。このため、同じ災害でも、資料によって被害状況を示す数値や記述内容が異なる場合があります。また、今日からすると適切でない表現を含む場合があります。なお、原資料に明らかな間違い等がある場合には修正を行い、その旨を備考欄に記載しています。

■著作権

四国災害アーカイブスで提供する情報は著作権法で保護されています。著作権法に定められた範囲内で使用する場合を除き、無断でサイト内の情報を複製、転載、改変、編集、販売等を行うことはできません。サイト内の情報を利用する場合には、あらかじめ四国災害アーカイブス事務局にご連絡ください。

■情報の取扱について

四国災害アーカイブスの活用で、ホームページに記載されている以外の情報については出典をご記載ください。

四国災害アーカイブスの活用事例

アーカイブス活用事例①

私のまちの災害ガイドブックをつくる

四国災害アーカイブスに掲載されている災害にまつわる情報や写真、地図を整理することにより、自分が住んでいるまちの災害ガイドブックをつくることができます。高知県香美市や高知市の一例を示すと、以下のとおりです。災害ガイドブックがあ

れば、地域の災害に関する情報と石碑・痕跡等を結びつけて学ぶことができますので、学校や行政が行う防災教育などをより効果的に行うことができると考えられます。なお、ガイドブックの作成には文書作成ソフト等を使う必要があります。

災害ガイドブック(高知県香美市の一例)

昭和47年の繁藤災害

昭和47年(1972)7月5日午前6時、繁藤駅前の裏山が崩れ、6時45分の第二回目の山崩れにより消防団員が生き埋めとなった。6時48分第三回目の山崩れ。10時50分生き埋めとなった消防団員の着衣が見え、手作業で救出作業を開始しようとした10時54分、第四回目の土砂崩れが発生した。10万立米の土砂が一瞬のうちに駅前付近の集落や停車中の列車を押し流し、60人が行方不明となった。最後の遺体が発見されたのは、翌昭和48年2月下流の護岸工事中であった。(「土佐山田町史」1979年)
資料:四国災害アーカイブスより引用

繁藤災害の慰霊塔(香美市)



繁藤災害に関する地図



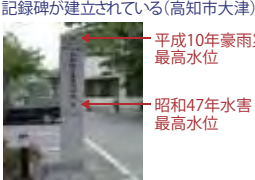
香美市 (地理院地図に加工)

災害ガイドブック(高知県高知市の一例)


平成10年の高知豪雨災害

平成10年(1998)9月24日～25日、秋雨前線による集中豪雨のため、高知市では1時間降水量129.5ミリ、日降水量628.5ミリの観測史上最高を記録した。このため、布師田、大津、介良、高須の国分川・舟入川流域、潮江中南部、初月地区などが浸水し、中心市街地や西部は一時的な冠水や局所的な浸水となった。被害は死者7人、負傷者11人、家屋の全壊16世帯、半壊17世帯、一部損壊32世帯、床上浸水12,684世帯、床下浸水7,065世帯等に及び、家屋の被害総額は約422億2,900万円に達した。(高知市編「平成10年9月集中豪雨災害」、2000年)
資料:「四国災害アーカイブス」より引用

大津ふれあいセンター前には水害記録碑が建立されている(高知市大津)



高知市大津付近の地図



高知市 (地理院地図に加工)

アーカイブス活用事例②

私のまちの災害年表をつくる

四国災害アーカイブスで自分が住んでいる市町村を検索すれば、自分のまちで過去にどのような災害が起こってきたのかを知ることができます。その情報を整理すれば、災害年表をつくることができます。さらに災害種類を絞り込んで検索すれば、地震・津波の年表や渇水の年表など、災害種類ごとの年表をつくることもできます。

例えば、愛媛県松山市の地震被害等の年表をつくと以下のとおりです。自分のまちの災害年表をつくることは、災害に関する関心を高めるだけでなく、地域の方々や生徒の皆さんが地域の歴史を学び、地域の現状や将来を考える上でも役に立つと考えられます。なお、年表の作成には表作成ソフト等を使う必要があります。

愛媛県松山市の地震被害等の年表

	和暦	西暦	松山市の地震被害等の概要(カッコ内は資料名)
飛鳥時代	推古13年	605年	推古13年(605)、地震により、道後温泉没す。(「松山市史 第1巻」)
	推古36年	628年	推古36年(628)、地震により、道後温泉ふさがり、3年後に再び出る。(「松山市史 第1巻」)
	天武13年10月14日(白鳳地震)	684年11月29日	天武13年(684)10月14日、地震(M8.25)により、伊予の温泉湧出止まる。(「松山市史 第1巻」)
			地震時にはたびたび道後温泉で湧出が止まりました
室町時代	明応7年6月11日	1498年7月9日	明応7年(1498)6月11日、伊予で地変(M7～7.5)。(「松山市史 第1巻」)
安土桃山時代	慶長元年7月12日	1596年9月4日	慶長元年(1596)7月12日、地震(M7.0)により、伊予薬師堂(松山市余土)の本堂・壬生門倒れる。(「松山市史 第1巻」)



	和暦	西暦	松山市の地震被害等の概要(カッコ内は資料名)	
江戸時代	慶長19年10月25日	1614年11月26日	慶長19年(1614)10月25日、地震(M7.7)により、山崩れて泉脈塞がる。道後温泉一時湧水止まる。 (「松山市史 第1巻」)	
	寛永2年2月5日	1625年3月13日	寛永2年(1625)2月5日、地震により、城の石垣20間、堀30間余崩れる。(「松山叢談」)	
	寛永2年3月18日	1625年4月24日	寛永2年(1625)3月18日、地震により、温泉塞がる。松山城主蒲生忠知命じて湯神社に祈祷する。 (「松山市史 第1巻」)	 <p>湧出が止まった時には道後温泉の湯神社で湯祈祷が行われてきました</p>
	寛永4年	1627年	寛永4年(1627)、地震により、道後温泉湧出止まる。(「松山市史 第1巻」)	
	寛永7年11月5日	1630年12月8日	寛永7年(1630)11月5日、地震により、泉脈閉塞。(「松山市史 第1巻」)	
	慶安元年2月5日	1648年3月28日	慶安元年(1648)2月5日、松山大地震。(「垂憲録拾遺」)	
	慶安2年2月5日	1649年3月17日	慶安2年(1649)2月5日、松山大地震、松山城石垣20間、堀30間破損する。(「垂憲録拾遺」)	
	貞享2年12月4日	1685年12月29日	貞享2年(1685)12月4日、地震(M5.9)により、道後湯没す。御城郭のうち数箇所崩れる。 (「松山市史 第1巻」)	
	貞享2年12月10日	1686年1月4日	貞享2年(1685)12月10日、地震(M7~7.4)により、時々道後温泉黄濁す。泥湯湧出後濁湯となる。 (「松山市史 第1巻」)	
	宝永4年10月4日 (宝永地震)	1707年10月28日	宝永4年(1707)10月4日、地震(M8.4)により、道後温泉湧出停止(145日間)。松山藩主久松定直公、道後湯神社に祈祷仰付く。(「松山市史 第1巻」)	
	安永4年10月4日	1775年10月27日	安永4年(1775)10月4日、大地震により、道後温泉の湧出止まる。(「川内町新誌」)	
	文化9年3月10日	1812年4月21日	文化9年(1812)3月10日、地震発生(M6.9)。松山でも被害が多かったようであるが、詳細不明。 (「松山市史 第1巻」)	
	嘉永7年11月5日 (安政南海地震)	1854年12月24日	嘉永7年(1854)11月5日、地震により、松山城 天守閣の石垣が2箇所ふくらみ、本丸では平野屋根の瓦が落ち、壁にも被害が出た。家中屋敷では全半潰20軒、土蔵の全半潰17箇所、下級藩士の家では全半潰114軒、町方の家屋では全半潰68軒、百姓家の全半潰1,273軒などの被害が出た。道後温泉の湧出も止まる。即死者2人。(「池内家記」)	 <p>地震時には松山城の天守閣などでも被害が出ました</p>
安政4年8月25日			1857年10月12日	
明治時代	明治38年6月2日 (芸予地震)	1903年6月2日	明治38年(1905)6月2日、芸予地震(M7.25)により、松山市、温泉・越智・伊予各郡で負傷17人、家屋全壊8戸、半壊58戸、被損235戸などの被害が出た。(「松山市史 第1巻」)	
	明治42年11月10日	1909年11月10日	明治42年(1909)11月10日、地震(M7.6)により、松山市三津浜で負傷2人、家屋倒壊1戸。 (「松山市史 第1巻」)	
昭和時代	昭和12年12月8日	1937年12月8日	昭和12年(1937)12月8日、松山市武徳殿・民家の障子破損、三津浜詰会社の煙突倒壊。 (「松山市史 第1巻」)	
	昭和21年12月21日 (昭和南海地震)	1946年12月21日	昭和21年(1946)12月21日、南海地震(M8.0)が発生し、道後温泉の湧出停止70日間。この地震により、死者26名、負傷32名、住家 全壊155戸、半壊118戸、非住家全壊147戸、浸水320戸、道路56箇所、橋梁8箇所、堤防67箇所などの被害が出た。(「松山市史 第1巻」)	
	昭和43年4月1日 (日向灘地震)	1968年4月1日	昭和43年(1968)4月1日、日向地震(M7.5)により、松山市で負傷2名、停電約42,000戸。体感余震は11回に及んだ。(「松山市史 第1巻」)	
	昭和43年8月6日 (宇和島地震)	1968年8月6日	昭和43年(1968)8月6日、地震(M6.6)により、停電約12万戸、負傷15名、道路損壊13箇所、山崩れ・がけ崩れ33箇所、鉄道通信施設にも被害。(「松山市史 第1巻」)	

注:西暦は、1582年10月4日(天正10年9月18日)まではユニウス暦で、それ以降はグレゴリオ暦で表記しています。

私のまちの災害にまつわる石碑・痕跡等マップをつくる

四国災害アーカイブには資料に基づく文字情報だけでなく、災害にまつわる石碑等の位置情報や写真もできるだけ掲載するようにしています。これらの情報をもとに、自分が住んでいるまちの災害関連の石碑・痕跡等マップをつくることができます。徳島県阿南市を例に、災害に関する石碑・痕跡等マップをつくると以下のとおりです。マップがあれば、災害現場や災害にまつわる石碑等の分布状況を知ることができますので、地

域の方々や生徒の皆さんがそれらを訪れてみようというきっかけづくりにもなりますし、地域の方々や生徒の皆さんの意識向上、災害の歴史教育の材料にもなります。また、これらの状況を見てもわかるように、人の力ではどうしようもない水害や津波があることを認識し、対応することが重要とのメッセージも含まれています。なお、マップ作成にはマップ作成ソフト等を使う必要があります。

災害にまつわる石碑・痕跡等マップ(徳島県阿南市の例)

古毛の大岩

羽ノ浦町古毛の那賀川には長さ約9m、幅約7m、周囲約23mの大岩があります。これは、慶応3年(1867)の万代堤の修築に際して、水の勢いから堤防を守るために硯石山から落とし入れられたものです。



万代堤

天明7年(1787)の洪水の後、古毛村の庄屋・吉田宅兵衛は下流の14の村々とも話し合い、那賀川左岸に堤防を完成させました。長さ約1,070mに及ぶ堤防は万代堤と名付けられました。万代堤の碑も建立されています。



大井手堰跡碑

羽ノ浦町岩脇には大井手堰跡碑があります。大井手堰は、岩脇の内川、中庄の那東川に水を引くために、延宝2年(1674)に藩命により佐藤良左衛門(初代)が修築した水門堰です。昭和30年に北岸堰に統合されました。



三栗の八幡神社

安政元年(1854)の南海地震により、那賀川は逆流し、津波が大京原近辺まで押し寄せ、那賀川町三栗の八幡神社の社前まで大船が流れてきたと言われています。



城山神社

上大野町の城山神社には、奉納した額が掲がられています。慶応2年(1866)の那賀川の洪水のため家が壊れ、天井板に乗って一里ほど漂流して助かった家族の様子が描かれています。



一の堰

桑野川の一の堰(初代)は昭和21年(1946)の南海地震及び昭和24年(1949)のジュディス台風により一部が崩壊しました。現在の一の堰は第3代目で、近くには石碑も建立されています。



楠木神社の大楠

明治25年(1892)、高磯山崩壊により那賀川を堰き止めていた土砂が決壊し、上流から下流に大水が押し寄せました。その時、中大野町の楠木神社の大楠に3人が登って難を逃れたと言われています。



橘町の和光神社

橘町の和光神社の石碑には、鶴地区がおよそ100年に一度大津波に襲われてきたことなどが刻まれています。また、昭和21年(1946)南海地震と昭和35年(1960)チリ地震の津波潮位も示されています。



福井町の住吉神社

福井町の住吉神社には「海嘯潮痕標石」が建っており、昭和21年(1946)の南海地震で、津波が来襲し、最初の津波は神社石段の6段目まで、二番目の津波は10段目まで到達したことなどが記されています。



椿八幡神社の常夜燈台石

椿八幡神社の常夜燈台石には、安政元年(1854)の南海地震による津波のため、家屋の流失や浸水、田畑の埋没などの被害が出たものの、神徳により死者はなかったことなどが記されています。



アーカイブス活用事例④

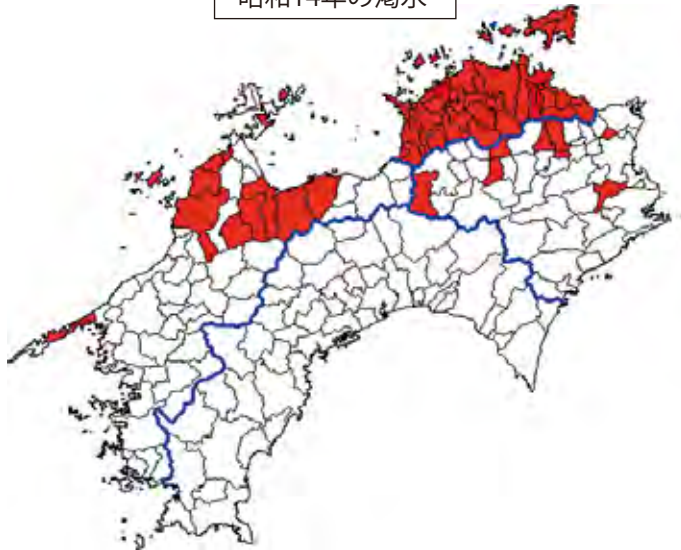
四国全体の渇水被害の分布図をつくる

検索する地域的な範囲を四国全体に広げることにより、どの地域でどのような災害が多いのか、どの地域で災害の発生頻度が高いのかなどが分かります。また、年代の異なる災害分布図を比較することによって、災害分布や災害の発生頻度の変化を知ることができます。

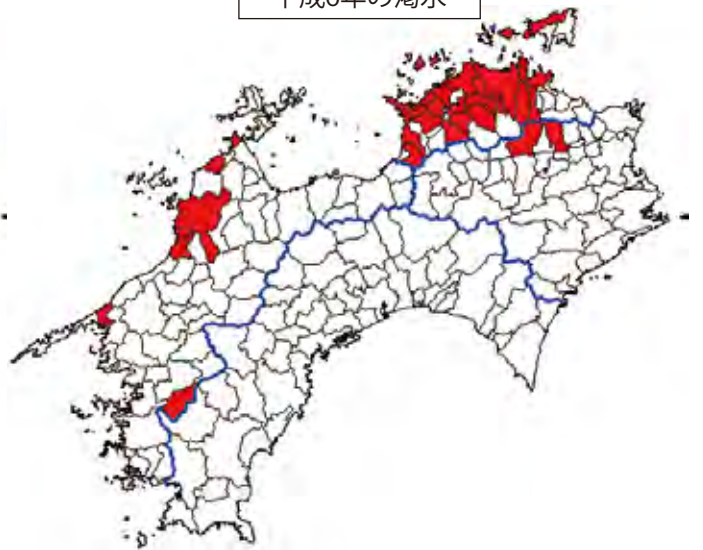
例えば、昭和14年(1939)と平成6年(1994)に渇水被害

が確認できた市町村を地図で示すと下記のとおり(平成の大合併前の旧市町村単位に赤で表示しています)。被害が確認できなかった市町村でも、実際には被害が起こっている場合があります。なお、地図の作成には地図作成ソフトを利用する必要があります。

昭和14年の渇水



平成6年の渇水



■ 古い史料の情報を利用する時に役立つ情報

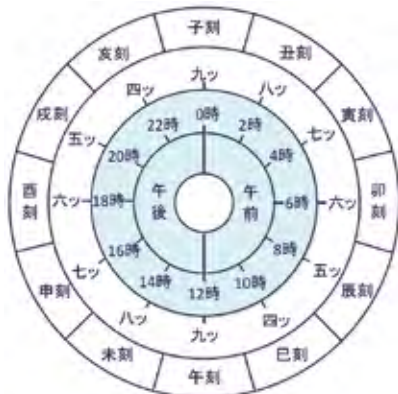
四国災害アーカイブスで古い史料の情報を利用する時に役立つ情報をお知らせします。詳しくは、サイト内の「アーカイブスあらかると」に記していますので、ご覧ください。

昔の時刻と今の時刻

江戸時代には、時の呼び方が二通りありました。一つは十二支法で、下図の一番外側に示したように、1日を12等分して、2時間毎に子刻、丑刻、寅刻のように十二支で呼んでいました。例えば、子刻は現在の午前0時を中心に午後11時から午前1時までの2時間を指していました。

もう一つは九ッ、ハッ、セツなどの数で呼ぶ不定時法です。これは、夜明けを「明け六ッ時」、夕暮れを「暮れ六ッ時」として、昼と夜をそれぞれ6等分する方法です。

昔の時刻(外側の白色部分)と今の時刻(内側の水色部分)



昔の単位と今の単位

尺貫法による計量単位は原則として昭和34年末まで、土地建物については昭和41年3月末まで使用が認められ、その後メートル法に統一されました。また、気圧は昭和20年に1気圧=1,013ミリバール(mb)となり、平成4年からはヘクトパスカル(hPa)となりました。

区分	昔の単位	今の単位
長さ	1寸	約3cm
	1尺=10寸	約30cm
	1間=6尺	約1.8m
	1丈=10尺	約3m
	1町(丁)=60間 1里=36町(丁)	約109m 約4km
面積	1坪	約3.3㎡
	1畝=30坪	約99㎡
	1反=10畝	約992㎡
	1町=10反	約9,917㎡

区分	昔の単位	今の単位
体積	1合	約180ミリリットル
	1升=10合	約1.8リットル
	1斗=10升	約18リットル
	1石=10斗	約180リットル
重さ	1匁	3.75g
	1斤=160匁	600g
	1貫=1,000匁	3.75kg
気圧	1気圧=760mmHg (水銀柱ミリメートル)	約1,013hPa (ヘクトパスカル)

和暦と西暦

日本では明治5年まで太陰太陽暦が使われ、明治6年から太陽暦に改暦されましたので、改暦前は和暦と西暦の月日は一致せず、改暦後は一致することになりました。また、四国災害アーカイブスでは、西暦について1582年10月4日まではユニウス暦を用い、翌10月15日からグレゴリオ暦で示しています。(1582年10月5日~14日は存在しません)

時期	和暦の基準	西暦の基準	和暦と西暦の月日
天正10年9月18日(1582年10月4日)まで	太陰太陽暦	太陽暦(ユニウス暦)	月日が一致しません
天正10年9月19日(1582年10月15日)~ 明治5年12月2日(1872年12月31日)	太陰太陽暦	太陽暦(グレゴリオ暦)	月日が一致しません
明治6年1月1日(1873年1月1日)以降	太陽暦(グレゴリオ暦)	太陽暦(グレゴリオ暦)	月日が一致します

四国災害アーカイブスの操作方法

四国災害アーカイブスの操作方法

操作は簡単です。以下の手順で四国災害アーカイブスの情報を入手することができます。

- 1 インターネットで「四国災害アーカイブス」にアクセスしてください。
四国災害アーカイブス(<http://www.shikoku-saigai.com>)
- 2 アーカイブスの画面が表示されたら、右側の検索ボタンで知りたい内容を検索してください。
例えば、徳島県海陽町の昭和21年の南海地震の情報を知りたい場合には、県名で「徳島県」を、市町村名で「海陽町」を、災害種類で「地震・津波」を、そして年代で「昭和30年代まで」を選択します。キーワードで検索することもできます。複数の検索項目を選択すると、絞り込みが行われます。
- 3 画面中央に検索結果が表示されますので、関心のある情報のタイトルをクリックしてください。
タイトルをクリックすると、詳細な災害情報を見ることができます。具体的な情報の内容は下記のとおりです。

【徳島県海陽町(海南町)の「昭和21年の南海地震」の情報】

■災害年月日
原則として原資料に基づいて西暦年月日で表記しています。災害が数日間にわたって発生している場合は災害発生初日を記載。

■市町村
情報が旧市町村に関する場合には、現在の市町村名に加えてカッコ書きで平成の大合併直前の市町村名を記載。

■概要
災害の様子、被害の状況、人々の対応など災害情報の概要を200字程度以内で記載。

■地図情報
災害地域の地図情報を、地理院地図とGoogleマップで表示。

■備考
災害にまつわる石碑、痕跡、史跡等がある場合には、石碑等をアイコンで示した地図を表示。また、関連する写真がある場合には写真を掲載、石碑等の位置情報も表示。

■原資料PDF
著作権者の許諾が得られた場合には、原資料PDFを掲載。

■参考文献
この災害情報について、編著者名「書名」(発行元、発行年)、関連ページ数を記載。

■キーワード
キーワードを5つ以内。

■県名検索
○徳島県
○香川県
○愛媛県
○高知県

■市町村名検索(徳島県の例)
○美波町
○海陽町
○松茂町
○

■災害種類検索
○地震・津波
○土砂災害
○湯水
○風水害
○高潮
○雪害
○火山災害
○大規模な火災
○その他

■年代検索
○江戸時代以前
○江戸時代
○明治・大正時代
○昭和30年代まで
○昭和60年代まで
○平成以降

四国にある公益性を有する組織の災害関連サイト等にリンクを張っています。

過去の災害情報をお寄せください

四国災害アーカイブスを多くの方々に利用していただくためには、アーカイブスに登録する情報内容を充実させることも重要です。皆さまの身近に四国の過去の災害に関する文献資料や映像などがありましたら、アーカイブス事務局までご連絡をお願いします。

メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジンの受信を希望される方は下記にメールをお送りください。

E-mail: info@shikoku-saigai.com

四国災害アーカイブス事務局
(一般社団法人 **四国クリエイト協会**)

〒760-0066 香川県高松市福岡町3 -11-22
電話08 7-822-1676 FAX08 7-823-8569
<http://www.shikoku-saigai.com>